

## 破碎粃米は交雑種肥育牛に給与する 配合飼料の 40%まで置き換えできる

破碎粃米のサイレージ（粃 SGS）は、これまでに給与飼料のエネルギー濃度が低下しないように稲わらの給与量を調整することで、黒毛和種および交雑種の去勢牛に配合飼料の 20% または 40%を置き換えて給与できることが確認されています。しかしながら、粃 SGS は収穫時に破碎密閉処理を短期間で行うなど多大な労力を必要とすることから普及が進んでいません。

そこで、千葉県畜産総合研究センターでは、貯蔵性が高く、給与時に破碎することで利用可能な乾燥粃米に着目し、交雑種去勢牛への給与試験を実施しましたのでその成果を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 乾燥処理した粃米をデリカ社 D4000 の破碎機で破碎し、破碎後から試験牛出荷までの約 15 ヶ月間ポリ袋内装フレコンバックで密閉貯蔵し、配合飼料の 20%を置き換える 20%区、40%を置き換える 40%区の試験区、及び対照区を設定し、各区に交雑種去勢牛 4 頭を用いて給与試験を行いました。
2. 20%及び 40%の各試験区は、粃米に由来する粃殻相当重量（粃米の 2 割）の約 8 割（肥育の前期・中期）～5 割（肥育後期）の稲わらを減じて TDN 濃度の低下を防ぎました。その結果、飼料摂取量、増体、枝肉成績、枝肉単価、第一胃内容液や血液性状、牛肉および脂肪の組成などは対照区と同等の成績が得られ、9～15%の飼料費節減が可能になりました。
3. 粃米との置き換えによって飼料中の粗蛋白質含量が低下しますが、粗蛋白質含量 13.5%の配合飼料を用いた場合には、置き換え率が 40%までであれば、補正しなくても蛋白質の大きな不足は生じません。



図1 粃米の破碎処理状況



図2 破碎粃給与試験状況



図3 破碎米を給与した枝肉断面  
(40%区)

### ☆ 活用面での留意点

1. 配合飼料の 40%を粃米で置き換える多量給与では、不消化粃米や粃殻に起因すると思われる食滞が発生するリスクがあるため牛の採食状況等に注意することが大切です。
2. 詳しくは、千葉県畜産総合研究センター乳牛肉研究室 川嶋賢二 (TEL043-445-4511) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)